

鬼北町立泉小学校 令和5年12月

【評価基準】 A: 目標を達成 B: 75%以上達成 C: 60%以上達成 D: 60%未満の達成														4: と思う 3: どちらかと言えばと思う 2: どちらかと思えば思わない 1: 思わない													
項目	重点目標	評価指標及び目標値		評価	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)							担当者												
		評価指標	目標値					4	3	2	1	指数	全体平均														
1 豊かな心と健やかな体の育成	生徒指導の徹底	① 基本的生活習慣(気持ちのよい挨拶)は、適切に指導され、身に付いてきている。	児童、保護者、教職員、学校運営協議会委員における指数85%以上	A	【考察】 全体平均は前期と同様のポイントを示した。保護者、教職員、地域の方の評価は上昇したが、児童の評価はやや低下していた。大人と児童の認識の違いが出ているように感じる。教職員の指導が、児童に浸透するような声掛けや意識付けが必要と考える。 【改善方策】 ①引き続き児童会を中心とした「あいさつ運動」を行う。 ②地域の方や保護者の方の思いを児童に伝え、自ら挨拶をすることによって、地域が明るく元気になることを理解する場を設定する。	児童アンケート(7つのやくそく)	B	43	43	11	3	82	89	生徒指導主事													
						児童アンケート(あいさつ)	A	70	19	11	0	90															
						保護者アンケート	A	50	50	0	0	88															
						教職員アンケート	A	75	25	0	0	94															
						地域有識者アンケート	A	63	38	0	0	91															
	※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。																										
	健康安全教育の推進	② 教育相談や教育相談的対応に取り組み、児童理解とコミュニケーションが深化した。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数85%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して3ポイント上昇した。児童、保護者、教職員ともに指数の上昇が見られる。毎月の学校生活に関するアンケートの実施やSSWとの連携、全教職員が教育相談にあたる機会の設定など、教育相談の機会を多く設定したことによる成果と思われる。今後も、児童との教育相談の機会を、時を逃さず実施することが望まれる。 【改善方策】 ①学級担任による定期的な教育相談の実施、SSWによる教育相談の充実を今後も継続し、児童全員が、職員と相談できる機会を設定する。	児童アンケート	B	41	49	3	8	80	89	生徒指導主事													
						保護者アンケート	A	57	44	0	0	89															
						教職員アンケート	A	86	14	0	0	96															
2 豊かな心と健やかな体の育成	健康安全教育の推進	① 教科体育・体育的行事の指導が充実し、体力向上に役立った。	児童、教職員アンケートにおける指数85%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して6ポイント減少した。学習面と運動面についてやや学習への時間配分が多くなったように感じる。学習も運動もバランスよく実施することが必要である。また、全校遊びを活用して、屋外活動を奨励する必要性も感じる。 【改善方策】 ①愛媛県や教育委員会から示されている方針に則り、感染予防対策を徹底しながら、今後も児童の体力向上を図る。 ②児童会を中心として、全校遊びを行い屋外での活動をする機会をとる。	児童アンケート	A	78	19	0	3	93	89	生徒指導主事													
						教職員アンケート	B	50	38	13	0	84															
	※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。																										
	特別支援教育・人権教育・道徳教育の推進	② 適切な給食指導や保健指導及び交通指導等を実践し、校内外における健康・安全の確保に努めている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数85%以上	A	【考察】 全体平均は前期と比較して1ポイント減少した。児童の登下校に関する指標がやや下がったものの、他の項目については改善が見られた。登下校については、地域の方の見守りもあり、安全に登校できている。地区別児童会の機会を利用し、登下校の仕方について話し合う機会を持つことが大切である。 【改善方策】 ①保健だよりや学級通信等で、歯磨き・洗顔・朝食の習慣付けについて保護者に啓発する。 ②地区別児童会の機会を利用し、自身の登下校の目標を立てさせたり、その目標に関しての自己評価をさせたりする。	児童アンケート(登下校の安全)	A	65	30	5	0	90	91	生徒指導主事													
						児童アンケート(歯磨き、洗顔、朝食)	A	57	35	3	5	86															
						保護者アンケート	A	71	29	0	0	93															
						教職員アンケート	A	75	25	0	0	94															
※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。																											
特別支援教育・人権教育・道徳教育の推進	① 生活班活動や児童会活動、学校行事等を通じて友達と協力して物事をやり遂げたり高め合ったりする心を育てている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数85%以上	A	【考察】 全体平均は前期と比較して1ポイント減少した。児童アンケートの項目が下がっていることが影響している。今後も、児童が所属感を感じられるように、生活班での活動や集会活動の実施が望まれる。 【改善方策】 ①高学年がリーダーとして活躍できる場、児童一人ひとりが認められ活躍できる場を盛り込んだ活動を、計画・実践していく。	児童アンケート	A	54	38	3	5	85	86	生徒指導主事														
					保護者アンケート	A	54	46	0	0	89																
					教職員アンケート	B	38	63	0	0	84																

鬼北町立泉小学校 令和5年12月

【評価基準】 A:目標を達成 B:75%以上達成 C:60%以上達成 D:60%未満の達成														4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかとも言えない 1:思わない													
項目	重点目標	評価指標及び目標値		評定	学校による考察・改善方針	評価資料	評定	アンケート結果(%)						担当者													
		評価指標	目標値					4	3	2	1	指数	全体平均														
2 確かな学力の定着と向上	授業力の向上	① 目標と指導と評価の一体化を目指し、ねらいを明確にした授業を展開している。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数 85%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して2ポイント減少した。しかし、教職員のアンケート項目が低下した。ねらいの提示、振り返りの場の設定を確実に実行しているが、児童の学力向上が思ったように進んでいないことが、教職員の反省として出ているように感じる。今後も一層、授業改善に取り組む必要がある。 【改善方針】 ①ねらいの提示、振り返りの場の設定を確実にに行い、自己評価や教師による児童の学習成果の見取りを、次時に生かせる授業づくりの継続に努める。	児童アンケート	A	49	51	0	0	87	85	学力向上推進主任													
		② 自分の考えをまとめたり、表現したりする活動を大切に授業を展開している。	教職員アンケートにおける指数 90%以上	B	【考察】 全体平均が前期と比較して4ポイント上昇した。本校児童の実態である、自分の考えを表現することが苦手ということを意識した授業改善が行われている。今後も、授業の内容の精選や進め方を工夫し、自分の考えを表現する場を確保しながら、児童それぞれの学力定着を図る必要性がある。 【改善方針】 ①自分の考え及び感想を発表する場や、短作文等を通じた書く場を、今後も積極的に設定する。 ②児童に自分の考えをまとめさせる指導法について研修を行い、全学級で統一した指導を行う。	教職員アンケート	B	14	86	0	0	79			79	学力向上推進主任											
	※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。																										
	基礎・基本の定着	① 「学びの約束」を指導し、学習規律の確立に努めている。	児童、教職員アンケートにおける指数 85%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して1ポイント減少した。児童アンケートの指数が下がった影響が出ている。各学級で、学びの約束を復唱したり、今日の目標として学びの約束の中から重点的に取り上げる項目を決めたりしているが、少しマンネリ化していることも考えられる。活動の見直しも含め、改善が必要である。 【改善方針】 ①授業中、学びの約束についての意識付けを図るために、児童への声掛けを適宜行う。 ②学びの約束の項目の中で、できるようになったことについては称揚し、自己肯定感を育てつつ、学習規律の確立を目指す。	児童アンケート	B	49	41	5	5	83	86	学力向上推進主任													
		② 漢字の読み書きや計算の定着を目指し、iPari等で繰り返し指導している。	保護者、教職員アンケートにおける指数 85%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して5ポイント上昇した。基礎基本の学習内容の定着を図るために、各学級でしっかりとプリント学習を進めることができています。今後も、継続して基礎・基本の定着を図る必要がある。 【改善方針】 ①たかのすタイムでは、現在学習中の内容の補充のほかに、既習内容で忘れてしまっているような内容の学習を含め、基礎・基本の定着を図る。 ②家庭でも復習できるよう、適切な量の課題を与え、家庭での学習習慣を付けさせる。	保護者アンケート	A	54	46	0	0	89			89	学力向上推進主任											
	※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。																										
	家庭学習の定着	① 家庭学習の各学年の目標時間が達成できるよう指導や啓発に努めている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数 85%以上	B	【考察】 全体平均が前期と比較して1ポイント上昇した。児童・保護者は、評価に改善が見られたが、教職員の評価はやや下がった。家庭学習チェック週間を設け、学級通信でそのことを保護者に伝え、家庭学習の習慣付けを図ってきた。今後は、じっくりと学習に取り組めるような課題の配付や、学年に応じた学習時間を確保できるような課題量を考える必要がある。 【改善方針】 ①家庭学習の目標時間について、児童・保護者と共通理解を図り、その時間に相当する課題を課し、学習習慣の定着を図る。 ②自主学習を奨励し、しっかりと取り組んでいる児童については称揚して、より多くの児童が自主学習に取り組めるよう働き掛ける。	児童アンケート	B	51	35	3	11	82	82	学力向上推進主任													
		保護者アンケート	B	42	54	4	0	84																			
※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。																											
読書活動の推進	① 読書到達目標の達成に向けて、読書指導を行っている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数 85%以上	B	【考察】 全体平均が前期と比較して2ポイント減少した。特に児童アンケートでは、評価が「C」となった。学校では、図書館の利用が進んでいるようだが、家庭で読書をする時間はあまりないように見受けられる。家庭で読書する習慣付けを図る取り組みについて考慮する必要がある。 【改善方針】 ①「うちどく」の良さを保護者に伝え、家庭でも読書をする啓発を行う。 ②児童が様々なジャンルの本に出会えるための仕掛け(読書パズル、本の紹介等)を行い、読書目標が達成できるよう啓発を行う。	児童アンケート	C	32	38	14	16	72	80	学力向上推進主任														
	教職員アンケート	A	50	50	0	0	88																				
※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。																											

令和5年度 後期学校評価 自己評価書

鬼北町立泉小学校 令和5年12月

【評価基準】 A:目標を達成 B:75%以上達成 C:60%以上達成 D:60%未満の達成 4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない																
項目	重点目標	評価指標及び目標値		評価	学校による考察・改善方針	評価資料	評価	アンケート結果(%)						担当者		
		評価指標	目標値					4	3	2	1	指数	全体平均			
3	家庭・地域との連携	① 通信や配付文書、家庭訪問・懇談会・電話連絡等による情報提供が行われている。	児童、保護者、教職員、学校運営協議会委員における指数85%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比べ、2ポイント上昇した。地域の方から、学校ホームページの更新が頻繁に行われおり、学校の様子がよく伝わるという意見をいただいている。今後も様々な機会を通じて、学校の様子を保護者や地域に伝えられるとよいと考えている。 【改善方針】 ①今後も、様々な情報伝達手段を利用しての情報発信を行いながら、家庭・地域との連携を図っていく。 ②学校ホームページの更新については、毎日更新されている。今後も継続し、タイムリーな情報を発信する。	児童アンケート	A	60	35	0	5	87	94	教頭 ◎教務		
		② 地域に根ざした教育活動やPTA活動を通して、保護者や地域、関係機関との連携が深まった。	児童、保護者、教職員、学校運営協議会委員における指数85%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して1ポイント減少した。保護者や地域の方の指数は上昇したが、児童、教職員の指数はやや下がった。公民館や老人クラブの方との活動はコロナ禍以前に戻ってきている。十分に活動はできていると考えられる。教職員からは、地域の人材や教材を利用しやすいようにまとめるとよいという意見が上がった。来年度の検討事項である。 【改善方針】 ①PTAや公民館と情報を共有し、連絡を取り合いながら適切に教育活動を展開していく。 ②地域の人材や教材の整理をし、年間計画と関連させる。	保護者アンケート	A	67	29	4	0	91				
児童アンケート	A	88	13	0	0	97										
地域有識者アンケート	A	100	0	0	0	100										
						※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。										
						児童アンケート	A	51	41	5	3	85	91	教頭 ◎教務		
						保護者アンケート	A	71	29	0	0	93				
						教職員アンケート	A	50	50	0	0	88				
						地域有識者アンケート	A	100	0	0	0	100				
						※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。										
4	現職教育の充実、人的・物的・事務管理	① 効果的な校内研修が実施され、資質・能力の向上や自己研修に役立った。	教職員アンケートにおける指数90%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して5ポイント上昇した。若年教職員を中心とした研修体制がしっかりとなされている。それぞれの教員のキャリアステージに応じた業務の分担及び、教師としての技術の継承を適切に行う必要がある。 【改善方針】 ①若年教職員を中心とした研修体制を今後も継続し、ともに成長できる教職員集団の確立を図る。	教職員アンケート	A	75	25	0	0	94	94	教頭 ◎教務 ◎研修		
		② 連絡・報告・相談の徹底を図り、服務規律を厳守している。	教職員アンケートにおける指数90%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して5ポイント上昇した。教職員が互いにコミュニケーションを図りながら、明るい職場づくりの推進が図られている。 【改善方針】 ①今後も連絡・報告・相談を徹底し、全教職員が共通理解を図りながら、気持ちよく働くことのできる職場を目指す。	教職員アンケート	A	88	13	0	0	97	97		◎教頭 教務	
		③ 適切な人的管理と物的管理が行われ、生命を尊重する環境づくりに努めている。	教職員アンケートにおける指数90%以上	A	【考察】 全体平均が前期と比較して5ポイント上昇した。学校のバラ園は、校長や校務員が中心となって整備をしている。また、学校施設や備品の管理も毎月厳しくチェックし、修繕等の対応を早期に図ることができている。 【改善方針】 ①管理職が各担当教員との相談を密に取り、適切な人的管理と物的管理が行われるよう、情報を集約する。	教職員アンケート	A	88	13	0	0	97	97	◎教頭 教務		
								※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。								
学校運営協議会委員の所見		○あいさつをしてくれる児童が多い。元気なあいさつをしてくれたら、しっかりと褒めてあげることが大切である。 ○歯磨き、洗顔、朝食の習慣は家庭でしっかりと身に付けさせることが大切である。家庭への啓発をお願いしたい。 ○子どもの健全育成のためにも、教職員が一緒になって、子どもたちと関わり、遊んでもらいたい。 ○読書に関して課題があるということだった。宿題として読書を選択させる方法もある。検討してもらいたい。 ○自主学習は、好きでなければなかなかできるものではない。子どもの興味関心を引くような手立てを講じてもらいたい。 ○学校ホームページの更新が毎日行われている。その努力に感謝したい。学校の様子がよく伝わってくる。 ○地域に残る文化の継承ができればと考えている。地域への愛着や理解を深めてほしい。				学校の対応		●学習も運動もバランスよく実施することが必要である。児童会を中心として、全校遊びを活用し、屋外活動を奨励する。 ●児童の学力向上を図るため、今後も授業の内容の精選や進め方を工夫し、自分の考えを表現する場を確保しながら、児童それぞれの学力定着を図る。 ●「うちどく」の良さを保護者に伝え、家庭でも読書をする啓発を行う。 ●コロナ禍前に学校行事が戻ってきている。行事一つ一つの在り方を考え、行事の精選に努めるとともに、PTAや公民館と情報を共有し、連絡を取り合いながら適切に教育活動を展開していく。				◎教頭 教務				